

まちに架ける劇場

おわせ SEA モデルに伴う建築の提案

近年、コロナ禍によるテレワーク実施率の急増、若い世代の地方移住への関心が高まっている。

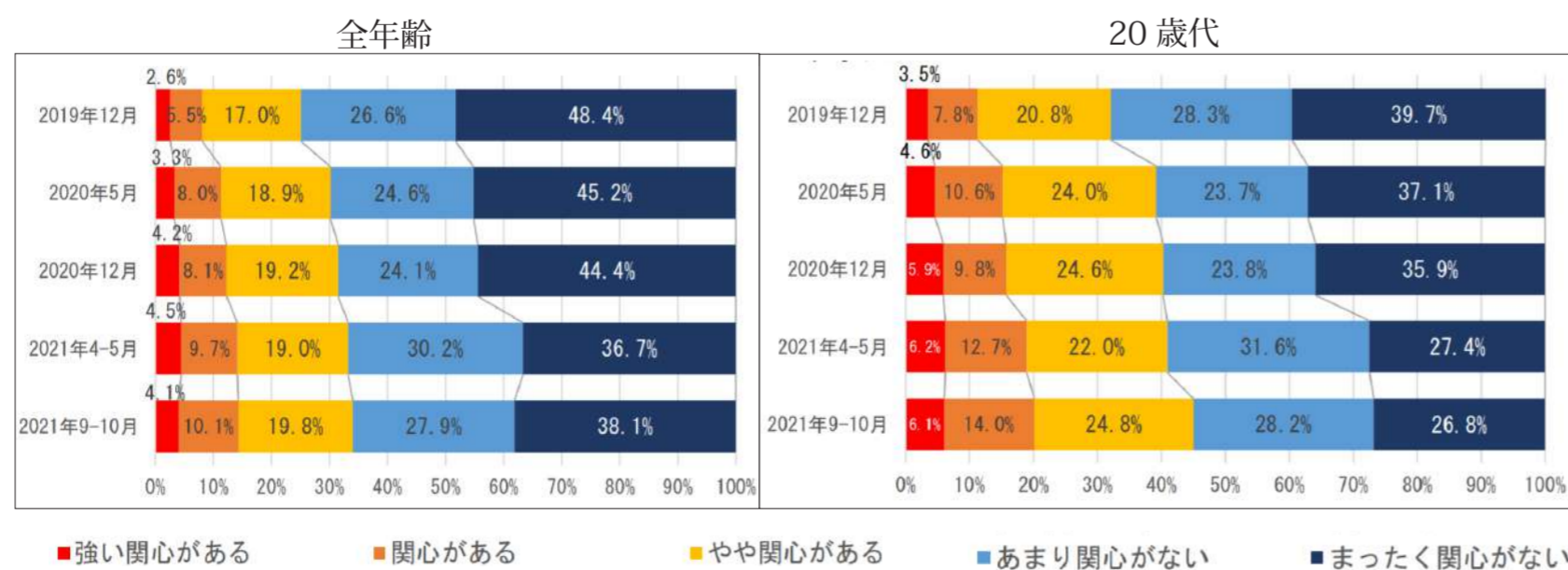
だが、地方移住に踏み切れない人が少なくない。

そこで、人々を集め活気あふれるまちづくりに力を入れている、三重県尾鷲市の新たなプロジェクト「おわせ SEA モデル」に伴う建築を計画する。

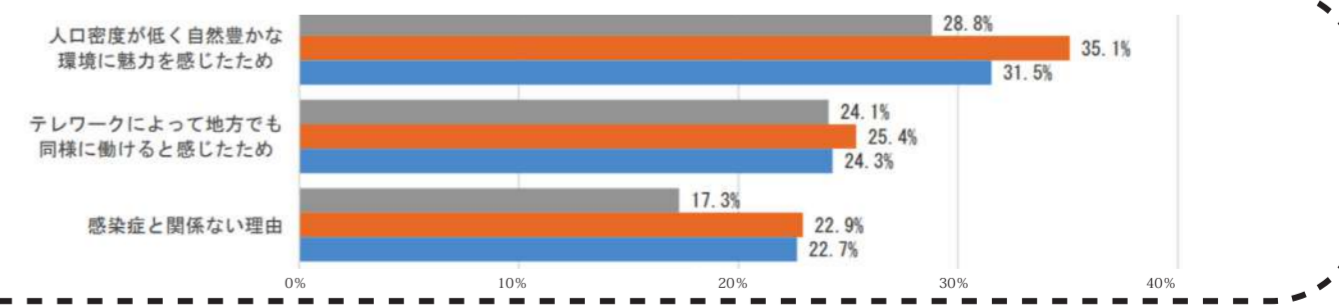


01. 地方移住への関心

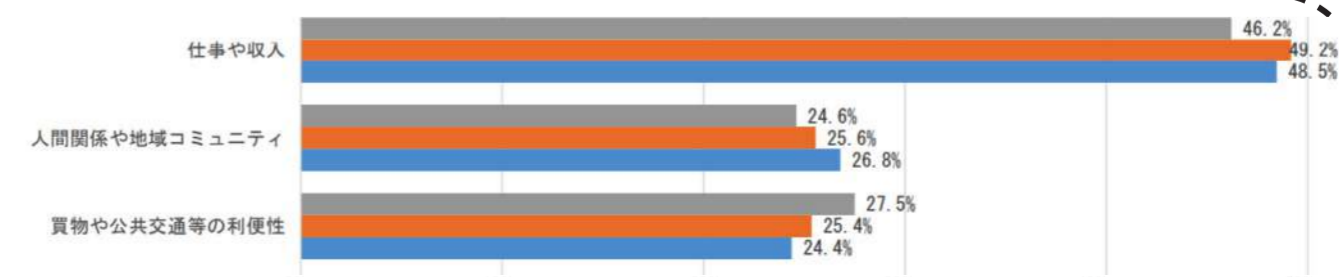
都市部への人口集中は、都市における過密化等による感染症リスクや自然災害リスクの増加や交通混雑等を引き起こす一方で、地方においては都市部への人口流出による地域経済・産業の担い手不足やコミュニティ維持の困難も引き起こす要因となる。そんな中、地方移住への関心が高まりに乗じて、この流れを増進させる取り組みが全国的にも盛んになっている。地方住民と移住者の意識の差を埋める交流の場が必要だと考える。



関心理由 (上位3つ)



懸念点 (上位3つ)



■2020年12月 ■2021年4-5月 ■2021年9-10月

02. おわせ SEA モデル

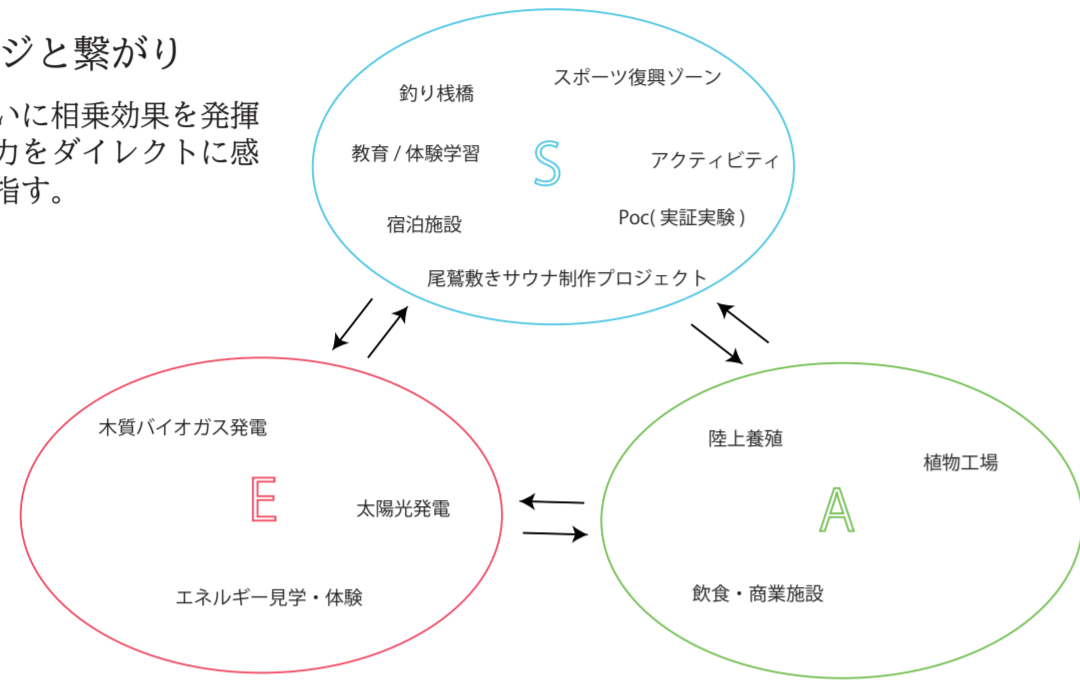
おわせ SEA モデルとは、三重県尾鷲市、尾鷲商工会議所および中部電力が、尾鷲三田火力発電所の跡地を、産業、観光、市民サービスを融合した拠点として人々が集い活気あふれる「ふるさと尾鷲」を目指すというものである。

この取り組みに着目したとき、計画敷地が線路や河川によって分断されており、まち全体の取り組みが見えづらいものとなっている。そこで、分断された敷地を歩道橋で繋げ可視化することで人の流れをつくり、交流を生みだそうと考えた。

- S: SERVICE サービス —— 集客交流人口拡大 (サービス・コンテンツの充実で市民も観光客も楽しめる場所へ)
- E: ENERGY エネルギー —— 新たなエネルギーの活用 (再生可能エネルギーを活用した新たなエネルギー発生基地へ)
- A: AQUA/AGRICULTURE アクア/アグリ —— 働く場所・雇用の創出 (尾鷲の恵みと新たなエネルギーの有効活用で新ビジネスの創出へ)

施工イメージと繋がり

これらがお互いに相乗効果を発揮し、尾鷲の魅力をダイレクトに感じることを目指す。



現時点 (2022 年 1 月末時点) のエリア分け

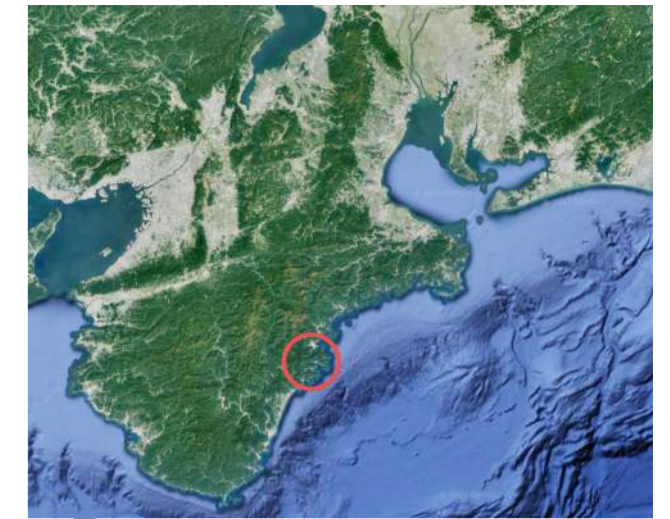


03. 計画敷地

尾鷲市は三重県南部、東紀州地域の中央に位置し、北は北牟婁郡紀北町、南は熊野市、西は大台山系を境に奈良県に接し、東は太平洋(熊野灘)に臨んでいる。

温暖多雨な気候と黒潮によって古くからその自然の恵みを受け、林業、漁業が栄えてきている。

敷地は尾鷲の山々が囲み、沿岸部に近い自然に囲まれた場所である。



04. 設計趣旨

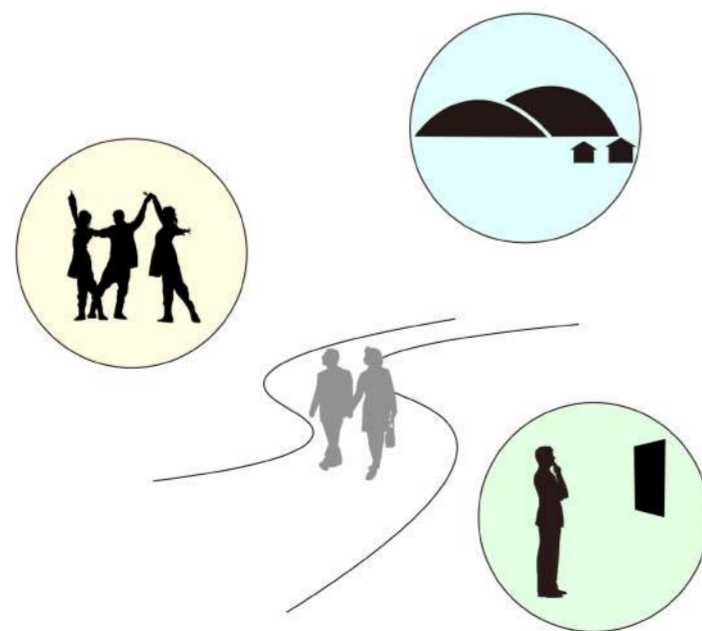
多目的に使える劇場とホールを構成するギャラリー空間、それに付随するコミュニティーセンターを設計する。

おわせ SEA モデルを利用する人が敷地をまたいで移動するとき、敷地の都合上車による移動が不可欠である。そこで、それぞれの敷地を歩いて移動できるよう歩道橋を設け、中心に位置する場所にギャラリーや劇場空間等を挟むことで、歩いて横断する際の寄り道感覚で様々なアクション生みだし、尾鷲の文化に触れ、魅力を最大限に感じてもらうことを目指す。

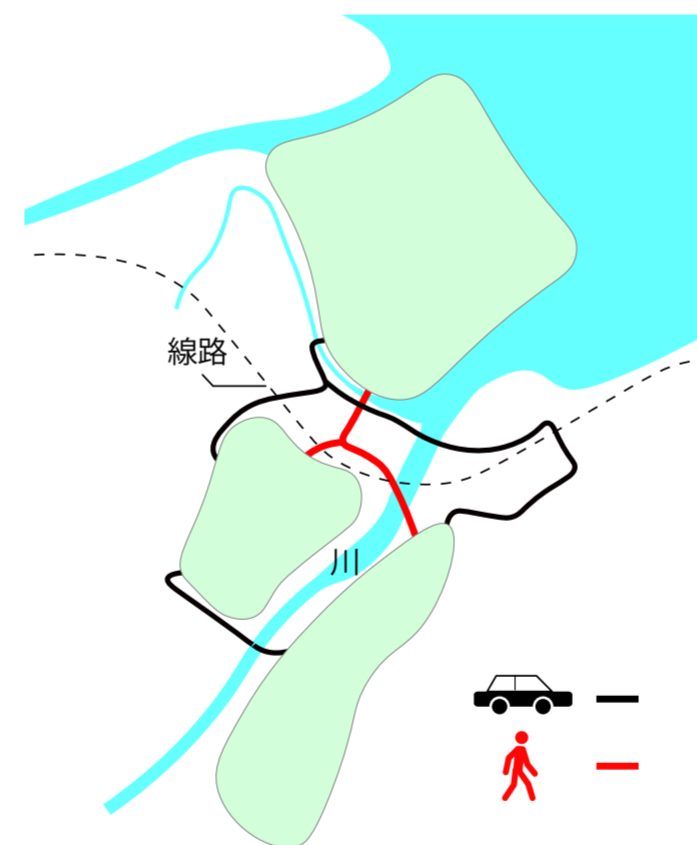
劇場という空間は、同じ目的の人が1カ所に集まり一つの演目を皆で鑑賞する時、必然的に場の一体感が生まれる。そのような空間が尾鷲にはなく、地元住民と尾鷲を訪れる人を繋ぐことができる施設が必要であると考えた。今回設計する劇場空間は誰もが立ち寄ることができ、開放的かつ尾鷲の新しいシンボルとなる。

<歩くことで生まれるアクション>

1. 尾鷲のまち並みが広がる
2. 劇場空間から音が聞こえてくる
3. 作品が並ぶ

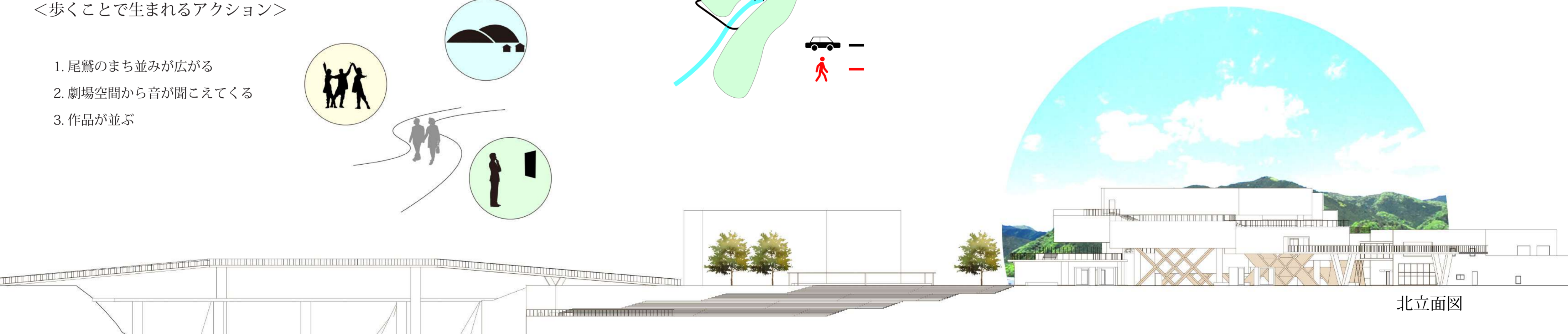
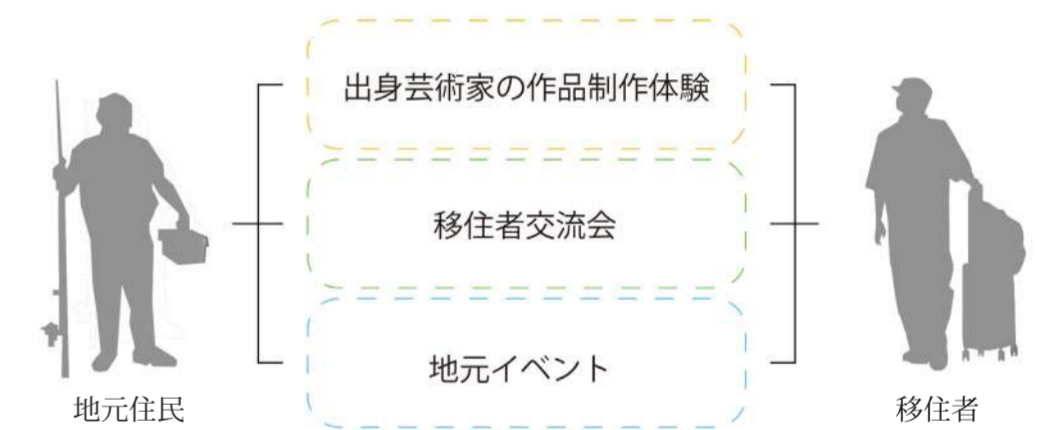


<車の動線と歩道橋による人の動線>



<地元住民と移住者との関係図>

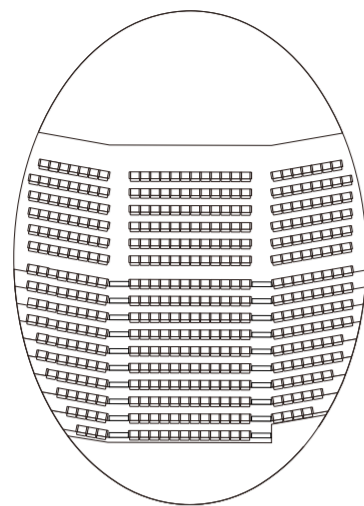
ギャラリーと渡り廊下により繋いだアトリエや研修室等を有するコミュニティーセンター、川へと繋ぎ屋外映画やイベント等の催しができる広場を提供することで、地元住民と移住者との交流が生まれ、人間関係の構築に寄与する。



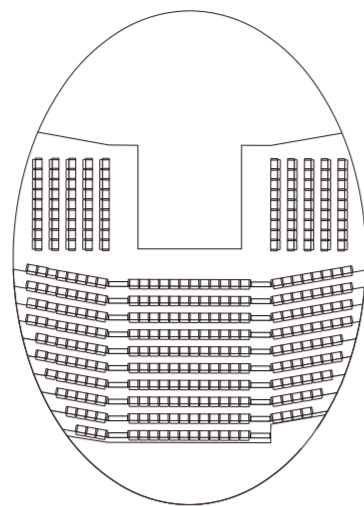
北立面図

05. 多目的に変化する客席パターン

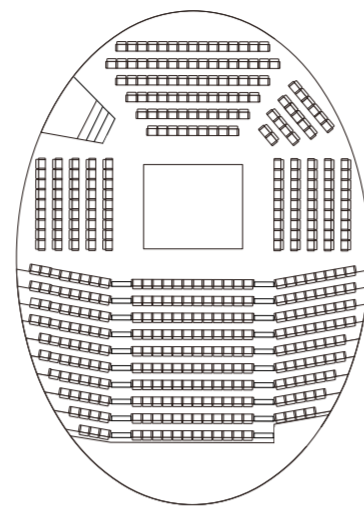
必要に応じて客席と舞台との関係を変化させ、演目に応じて適切な空間を創り出せるよう設計した。客席床面は、平土間の面積を大きくとり、また舞台面も客席レベルまで下げられる構造とした。



プロセニウムタイプ (394 席)
・演劇 ・公演 ・映画



スラストタイプ (338 席)
・ファッションショー

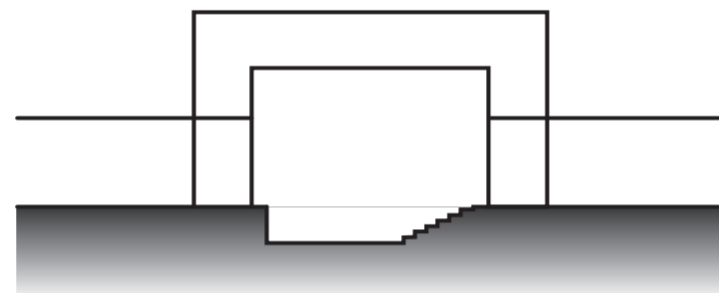


アリーナタイプ (400 席)
・コンサート

07. ダイアグラム



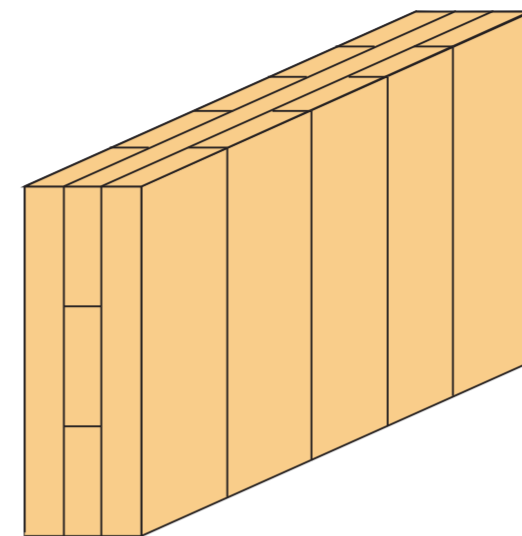
3つの敷地を繋ぐ軸に歩道橋を架け、それらが交わる位置にボリュームを置く。



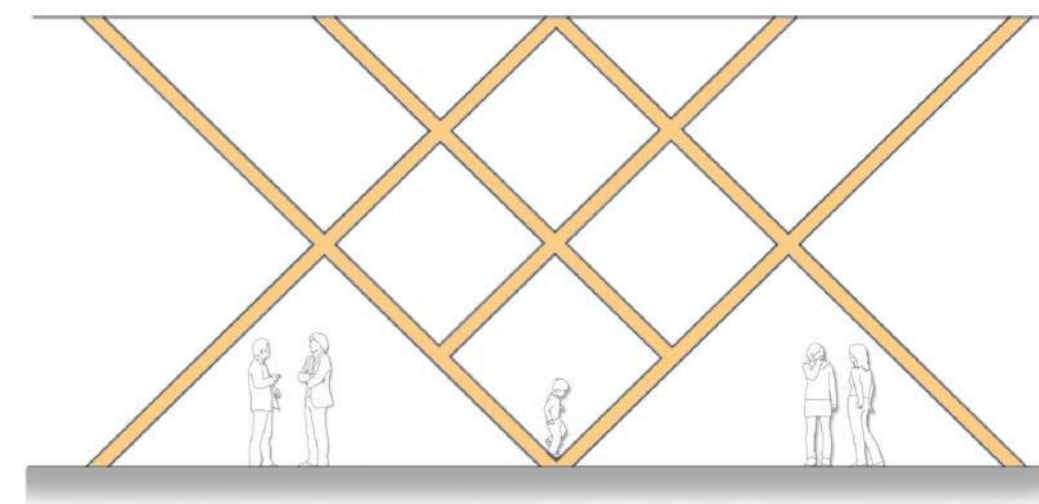
ボリュームの中央を掘り、そこを劇場空間とすることで、行き交う人々が文化芸術に触れることを誘発させる。

06. 「尾鷲ヒノキ」を使った CLT

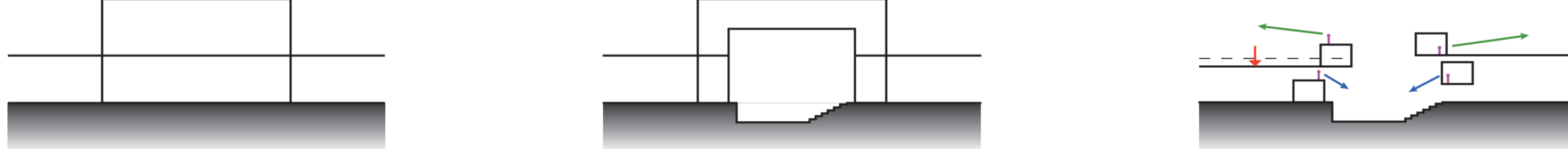
熊野灘の海に面した尾鷲の林業地は、ヒノキ林の割合が9割を占めるヒノキの一大産地である。その尾鷲ヒノキを CLT として利用する。



CLT はコンクリートの 1/5 の軽さで、構造材に使用しダイナミックなキャンティレバーを実現する。



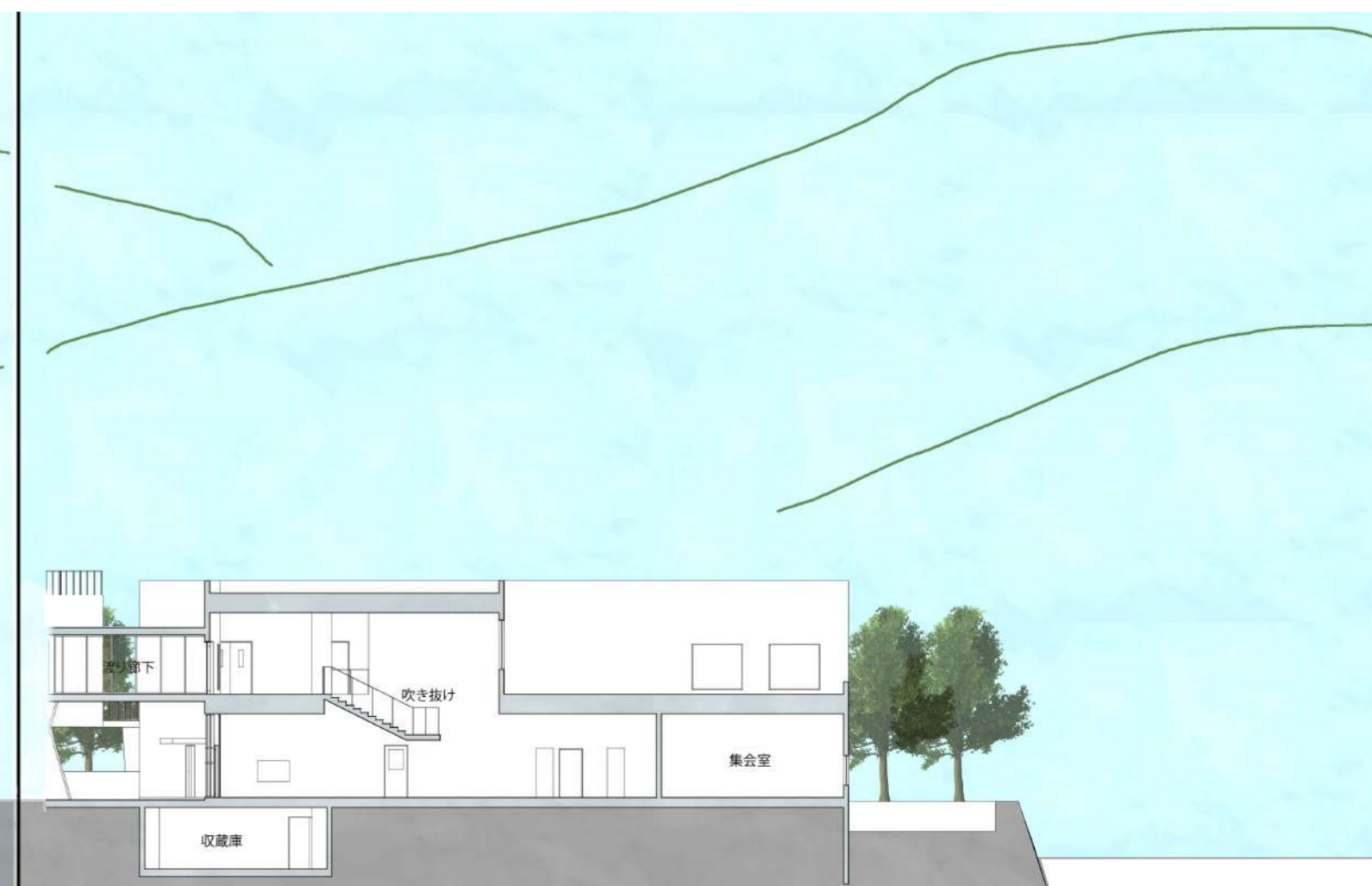
CLT 格子架構は人々のたまり場となり、コミュニケーションを促す



この場所に集まる流れを巻き上げるかのように、螺旋状にスキップフロアでリズムカルに空間を積む。



A-A' 断面図



B-B' 断面図

